**タイトル（MS明朝12ポイント太字、中央揃え）**

**英文タイトル（Century 12ポイント太字、中央揃え）**

**総合 太郎（氏名：MS明朝10.5p、太字、右詰）**

**SOGO, Taro（氏名英語表記：Century 10.5p、太字、右詰）**

（２行空ける）

**要旨：**（400字前後）

**キーワード：**（5個前後）

（1行空ける）

1. **本文の始まり**

見出しタイトルは太字（10.5p）。

本文開始（和文はMS明朝10.5p、英数字は半角文字Century 10.5 p）

段落開始時は空白１文字ではなく、インデントで１文字分下げる。

句読点は「、」「。」を使用

* 1. **節見出しは太字**

各節等のナンバリング含め、数字は全て半角数字（Century10.5 p）使用。

**2．本文中挿入図表、特殊文字など**

大見出しの前は１行空白行

1. **図表**

図(写真)は本文中挿入とは別に、１枚ずつ別添えする。別添えの図の形式はjpgやpngなどであることが望ましい。

表はワードの作表機能を用いるか、エクセルの表を貼り込む。図を画像に変換して貼り込むことはしない。

図表は組版時にフォーマットやサイズを変更したり、再作成したりする場合がある。

1. **特殊文字**

イタリック、本文内の太字指定、〇囲み数字、ふりがな、圏点、ギリシャ文字、ドイツ語、フランス語の文字、中国語の簡体字・繁体字、ハングル文字、特殊カッコなど（例：➀、さ、学際知、〔底層〕）は、黄色などのハイライトマークをつける。

強調を目的としてテキストの上に付する点は、「傍点」ではなく「圏点」とする。

ルビは、「(みとこうもん)」など、ルビ部分の後に括弧で読みをつける。難読漢字以外に読みとして付するルビ、たとえば「さ」は「‘自然さ’（ナチュラルさ）」と括弧で示すほうが望ましいが、編集では著者の意向を重視する。

段落頭の一文字下げや改行には全角スペースは用いず、それぞれタブキーによるインデントとリターンキーを用いる。

1. **注および参考文献**

注と参考文献は本文の後につける。

1. **注：**（前に空白１行）

注は後注とし、注番号は文中では上付き文字(1) (2)で示し、文末に(1)、(2)として記す。

ワードの脚注機能では、文末脚注の「セクションの最後」を選択する。こうするとの後に参考文献を入れることができる。ただし、注番号に括弧を付けるには若干の操作が必要になるため、この注のように括弧なしの数字だけでもよい[[1]](#endnote-1)。

1. **参考文献**（前に空白１行、MS明朝：アイウエオ順、Century：A,B,C順、10.5p）

小林直樹 (2006)「総合人間学の課題と方法」『総合人間学の試み―新しい人間学に向けて』小林直樹編、学文社、pp.11-13

マクルーハン, H.M. (1986)『グーテンベルクの銀河系―活字人間の形成』森常治訳、みすず書房

McLuhan, H.M. (1962) *The Gutenberg Galaxy: the Making of Typographic Man*, Routledge & Kegan Paul

Shizukawa, Y. and Kono, K. (1992) “Concentration and Relaxation.” *Natural Science*, 34(3): 168-173

総合人間学会設立趣旨(2019) http://synthetic-anthropology.org/?page\_id=1932 (2024.08.15閲覧)

**同一著者の場合**：

総合太郎 (2006)『総合人間学の課題と方法』

---------- (2020)『総合人間学の現在』

［そうごう たろう／総合人間大学／哲学／sogo@gmail.com

1. **［注］**

 このように括弧なしの数字で後注が入る。

=========セクション区切り======

**［参考文献］**

これより下に文献表が入る。 [↑](#endnote-ref-1)